

岩手日報

国際調整、与党に要望 推進協、政府決断訴え



【東京支社】国際リニアコライダー（ILC）の国内誘致を目指す東北ILC推進協議会は18日、実現に必要な各国の資金分担など国際調整を進めるよう政府与党に要望した。

自民党本部では、共同代表の里見進東北大総長、高橋宏明・東北経済連合会名誉会長、東北ILC準備室長の鈴木厚人県立大学長らが訪問。国会議員連盟副会長の鈴木俊一衆院議員（岩手2区）らも同行し、林幹雄幹事長代理に要望書を手

渡した。

要望書では、国際調整の



林幹雄幹事長代理にILC誘致を要望する（右から）鈴木厚人学長、高橋宏明名誉会長、里見進総長

ほかILCによる国内の産業・情報・技術ネットワーク形成や成長戦略の検討などを求める。

出席者によると、非公開の意見交換で同協議会側は、加速器の初期整備延長の短縮とコスト削減の検討が進んでいることなどを説明。林氏は「実現に向け協力したい」と応じた。鈴木学長は「東北でなすべき検討はかなり進んでおり、政府の誘致決断を待つのみだ」などと訴えた。

同日は萩生田光一官房副長官らにも要望した。

ILCは本県の北上山地（北上高地）が世界最有力の建設候補地とされる。政府は有識者会議の検討などを踏まえ、国内誘致の可否を今年から来年にかけて判断する見込み。